

経営比較分析表（令和6年度決算）

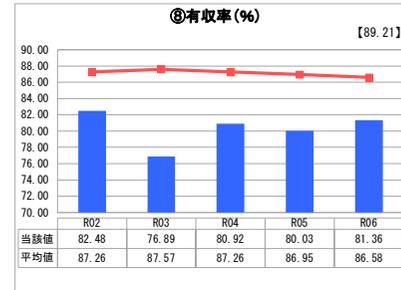
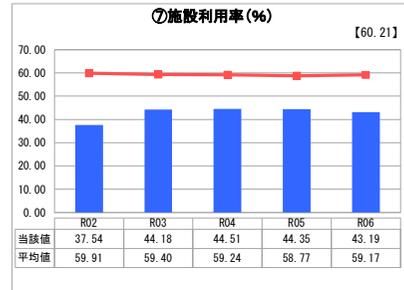
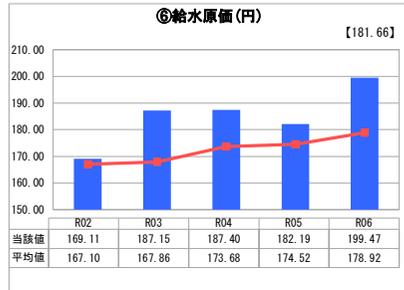
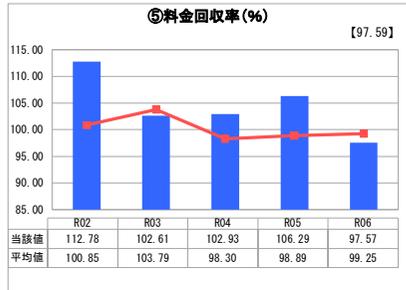
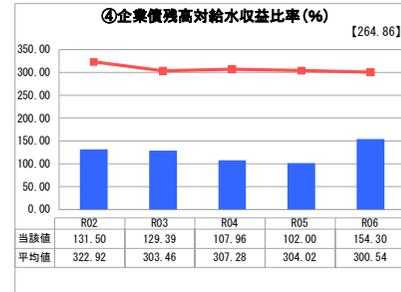
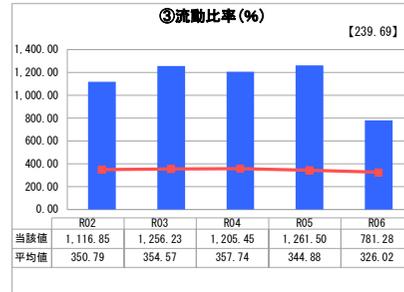
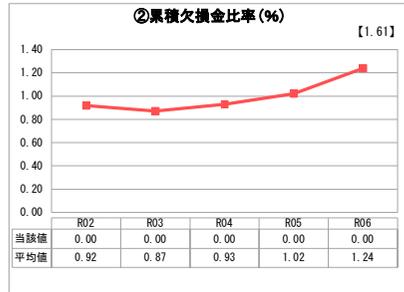
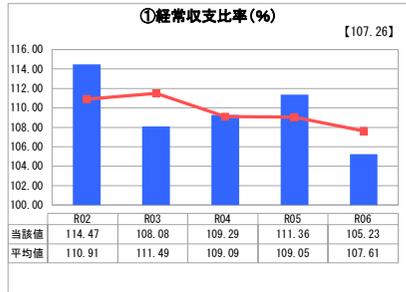
和歌山県 橋本市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	92.29	98.56	3,960	

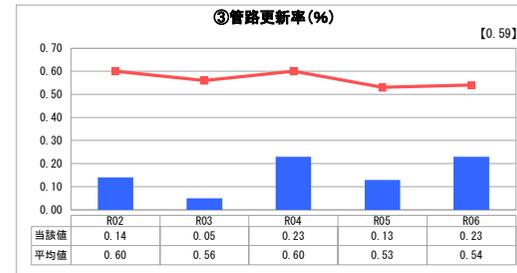
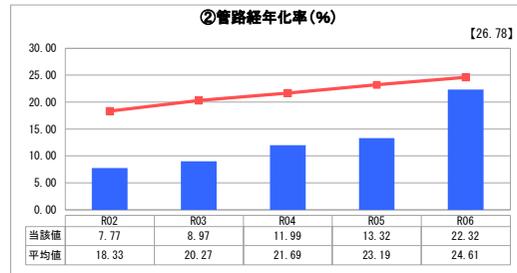
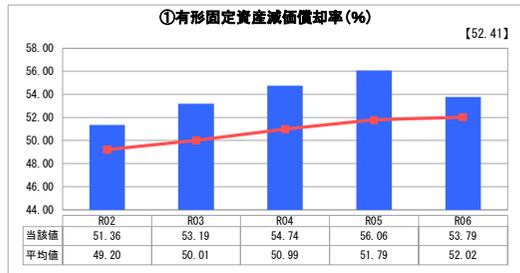
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
58,792	130.55	450.34
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
57,715	61.09	944.75

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は100%を超えているが、前年度よりも数値が減少している。これは、料金収入が減少している中で、物価高騰等による維持管理費の高騰によるものである。
- ②流動比率は類似団体平均よりも良好であるが、浄水場の更新工事などにより現金支出が増加したことから前年度よりも減少している。
- ③流動比率は類似団体平均よりも良好であるが、浄水場の更新工事などにより現金支出が増加したことから前年度よりも減少している。
- ④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均よりも低いが、今後は給水収益の減少や更新事業の増加による企業債残高の増加が見込まれる。
- ⑤料金回収率は給水収益の減少や、物価高騰の影響により100%を下回った。
- ⑥給水原価についても物価高騰の影響により前年度よりも増となっている。
- ⑦施設利用率は類似団体平均よりも下回っており、前年度と比較して若干の減少傾向にある。
- ⑧有収率については類似団体平均を下回っているが、漏水調査の実施による対策を進めていることで改善傾向にある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回っているが浄水場の更新などを進めることにより前年度数値を下回った。
- ②管路経年率は類似団体平均値を下回っているが、大規模住宅開発に伴う資産が法定耐用年数を迎えていることから、今後も計画的な更新が必要である。
- ③管路更新率は前年度と比べ増加している。

全体総括

令和6年度の当期純利益は86,096千円を計上したものの営業損失は294,911千円である。主要要因としては、給水収益の減少や除却による資産減耗費の増加である。
 経常収支比率は100%を超え、流動比率も781.28%と良好ではあるが、今後減少が見込まれるためさらなる経営の効率化を図る必要がある。
 老朽管の状況としては、管路経年率率が年々上昇していく見込みであるため、事業計画に基づき更新に取組む必要がある。